

成果の説明書

(氏名) 高橋美佐	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>(研究)</p> <p>2015年度は、若年女性の社会移動の動向についてアンケート調査をもとに子育て世代がどのような理由で社会移動をおこない、移動に際してどのような住環境や居住地を志向しているのかを分析し、論文にまとめた(共同研究)。少子高齢化の進行する地方都市の政策として、若年層に住み続けたいと思われる魅力あるまちづくりや子育て環境づくりが重要である。分析の結果、若年女性の移動には配偶者や子供の事情を強く優先する傾向がみられ、退職や転職を伴うことが少なくないこと、子どもがあり働いている人の一部で親族との近居の動きがみられること、普段の様子(仕事・専業主婦)や子どもの有無により地域での人間関係や交流の親密さに違いがみられることなどが明らかになり、転居先での再就職や地域社会へのなじみやすい環境づくりなどいくつかの課題について示唆を得ることができた。</p> <p>伊藤亜都子・高橋美佐 “神戸市におけるニュータウンの高齢化と地域コミュニティの現状～須磨ニュータウンを事例として～” 「地域政策研究」18巻2・3号 pp.71～86 (2016.1)</p> <p>高橋美佐・伊藤亜都子 “子育て世代の社会移動の動向と住環境から見る住み心地の志向について～平成26年度神戸市若年女性・人口移動実態調査より～” 「地域政策研究」18巻4号 pp. 49～68 (2016.3)</p> <p>(教育)</p> <ul style="list-style-type: none">・学部基礎教育科目の情報分野担当の非常勤講師のコーディネーターや連絡業務を担当し、円滑な授業運営と内容の充実に努めた。	
<p>2 その他の事項</p> <p>特になし</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>(研究)</p> <p>本年度おこなった若年層の移動や居住地選択の傾向に関する分析を加味した人口移動モデルを構築し、人の地域間移動に関する数理モデル分析を試みる。</p> <p>(教育)</p> <p>引き続き、学生、特に新入生の情報リテラシーレベルの動向と時代の要請の変化に注意し、「情報基礎1」科目を中心に学部カリキュラムの情報・統計分野科目の円滑な運営と内容充実に努めたい。</p>	